



東京園芸ニュース (28年度-63号)

平成28年11月 / 群馬県東京園芸情報センター

全国から104者の出展 加工・業務野菜産地と実需者 との交流会が東京で開催！

「第27回 国産野菜の契約取引 マッチングフェア in東京」

- 日時：11月15日（火）
- 会場：東京流通センター 第二展示場 Fホール
- 主催：(独)農畜産業振興機構 野菜流通カット協議会
- 内容：野菜や加工品の展示・商談会、加工・業務用野菜対策事業等の説明会
野菜産地と実需者によるセミナー

■群馬県からは4者が参加！

世帯構成やライフスタイルの変化により「食」の外部化が進み、加工・業務用野菜の需要が拡大する中、加工・業務用の国産原材料のシェアは約7割と家計消費用に比べ低い状況にあることから国産シェア拡大を図るために、今回の交流会が開催されました。

今回は、全国から104者の野菜生産者や加工業者等の出展があり、本県からは「JA全農ぐんま」（キャベツの一次加工処理品等）、昭和村の「(株)野菜くらぶ/グリーンリーフ(株)」(レタス・トマト・コンニャクや漬物、冷凍野菜等)、板倉町の「富士食品工業(株)」(カット野菜等)、前橋市の「カネコ種苗(株)」(シルクスweet(サツマイモ)やネバリスター(ナガイモ)等)の4者が出展し、各ブースとも多くの実需者と活発に商談や情報交換が行われていました。

■野菜の長期貯蔵について意見交換！

加工業務用野菜の新たな生産・流通方法を普及・啓発する観点から、今回は「長期貯蔵」にスポットを当てたテーマでセミナーが開催されました。

セミナーでは、千葉大学の椎名教授による基調講演に続き、3名の方から貯蔵技術等について話題提供がありました。

意見交換では、「長期貯蔵における殺菌対策」、「果菜類やかんきつ類の長期貯蔵試験の取り組み状況」、「具体的なコストの検討」等様々な質問が出され、活発な意見交換が行われました。



全農ぐんまブースの様子



野菜くらぶブースの様子



富士食品ブースの様子



カネコ種苗ブースの様子